

令和5年度 学校評価表(自己評価)

安芸太田町立安芸太田中学校

安芸太田町教育21もみじプラン教育目標 「地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」										
ミッション			自己を伸ばし、地域社会の活性化に向け、貢献・発信できる生徒の育成		ビジョン			主体的で協動的な学びが生まれる授業実践 生徒が輝く学級づくりと生徒会活動の充実		
学校教育目標			生徒が主役となって輝く教育の創造		バリュー			チーム安芸太田中 知識構成型ジグソー法 生徒指導の三機能 地域と協働		
めざす生徒像			心を磨き合える生徒 夢や目標に向かって挑戦し続ける生徒 ふるさとを誇りに思う生徒		学校研究主題			深い学びを引き起こす授業づくり ～安芸太田中授業スタイル(対話&授業プラン)を通して～		
中期経営目標	短期経営目標	評価項目及び評価方法			評価基準	担当	中間評価	最終評価	達成状況及び改善策(かっこ内の数値は前期)	評価委員の意見(最終)
学力の向上	基本的な学習習慣の確立	学習意欲を高め、自ら主体的に学習に取り組む	・学習習慣と学習意欲(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・年間読書数が10冊以上の生徒が70%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	教務部	B	B	肯定的回答率は学習習慣 1年生:68.7%(61.1%)、2年生:69.5%(69.5%)、3年生:62.6%(61.6%)、学習意欲1年生:71.9%(74.5%)、2年生:75.0%(78.3%)、3年生:73.6%(83.0%)となった。(かっこ内の数値は1学期実施分) [1年間に何冊の本を読みましたか?][に対して、10冊以上:4.5%、5～9冊以上:29.5%、4冊未満:65.9%と生徒ごとに読書意欲に差がみられる。 授業では、引き続き「安芸太田中授業スタイル(対話&学びプラン)」を通して、生徒に見通しを持たせながら、自己の学びを調整させつつ、主体的に学習に取り組ませる。家庭学習では、学年が上がるにつれて自主学習の割合を増やすことで、生徒が自らの課題を明確にしながら家庭学習に取り組むことができるようにする。 生徒会文化委員会を核とした学校図書館運営を行い、環境整備や読書推進活動を行うとともに、生徒に「毎月1冊以上本を読む」等の具体的な目標(目安)を提示することで、年間読書数を増加させる。	本や新聞を読む取組を進めることなど、活字に親しみ取組を引き続き継続させていってほしい。何のために勉強しなければいけないのかという勉強に取り組む前のマインドセット、目標設定を強化するとともに変化があると思います。 引き続き家庭学習の充実に向けた取組を継続してください。 家庭学習の時間の確保について、保護者へのさらなる啓発と協力依頼が必要だと思います。 自主的な学習が困難な生徒には、「答題」という形で課題を与えて、計画的・継続的にやり切らせることが必要だと思います。 おすそめ本のPOP作成、朝読書の充実、やまびこ号の活用、全校朝会での読書の呼びかけ、新聞を読むへの啓発などに今後取り組んでほしい。 生徒が計画を立てる方法を分かっていない場合があるので、読書の目標設定も含め、プランニング講座などをしてみるのも良いかと思えます。 本に触れる時間や場所の工夫、読書目標の明確化などにより一層の改善を求めます。	
	深い学びを引き起こす授業づくり	深い学びを引き起こす授業づくり	・各種学力調査の結果がすべての教科で全国平均以上 ・標準学力調査の活用問題の平均正答率が、すべての教科で全国平均以上 ・生徒質問紙の協動的な学びに関する項目の肯定的な回答の平均値が85%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下		A	A	各種学力調査では、37教科のうち31教科が全国平均を上回った。また、標準学力調査の活用問題の平均正答率は、すべての学年ですべての教科で全国平均を上回った。 生徒質問紙の協動的な学びに関する項目の肯定的な回答率が93.2%(96.4%)であった。 [知識構成型ジグソー法]を用いた協同学習の授業研究を一層充実させる。また、普段の授業でも、生徒同士が対話をしながら問題を解決する(生徒同士で考えを求め)場面を各教科で意図的に取り入れる。また、個別最適な学び(生徒が学び方を選択・決断できる幅を広げる)を推進する。	成果が出てきていると思えます。引き続き、取組を継続させていってください。 一人一人の学びに丁寧に寄り添っていることが成果につながっていると感じました。特色のある教育方針をキャッチコピーなど文字かすることで、より広がりやすくなると思います。 協同学習の授業でこれまで学んできたことや自己表現の中で培った力を発揮できるようにいってほしい。	
自己肯定感の向上	基本的な生活習慣の確立	「3コテ」や「ストップ9」の取組を通じた継続的な指導	・生活習慣(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・自己肯定感(i-check)の肯定的回答率85%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	生徒指導部	A	A	i-checkでの生活習慣の肯定的回答は、71.9%(1年:78.1%、2年:79.2%、3年:58.3%)であった。就寝時刻が24時を過ぎている生徒が多い傾向がある。自己肯定感[「あなたは地球上でたった一人の、あなたのことを大切に思っている人々にとって、かけがえのない存在である」ということを知っていますか。]という問いに対する肯定的回答は、1年:75.0%、2年:66.6%、3年:83.4%であった。 年間を通して、「3点固定」や「ストップ9」の取組を継続してきた。取組を進めていく中で、生徒の意識も高まってきている。重点取組期間だけでなく、日頃から意識していける声掛けと家庭での協力を求めていきたい。 自己肯定感については、2年生で低くなっているが、83.3%の生徒が「自分が成長していると感じる」と回答しており、自分の成長を自信につなげていくために、様々な活動を通して成功体験を重ね、自信につなげていきたい。	生活を改善することで自分がどう成長するのかということ伝えると、もっとよい取組になると感じました。 生活習慣は各家庭の事情もあるため、一緒に取り組むことは難しいと思いますが、24時までには寝る習慣は身につけていってほしいと思います。 「3コテ」の達成率は向上していると感じます。一方で、24時以降の就寝やゲーム・テレビの4時間以上の生徒(家庭)がいる現状では、設定時刻や時間帯が問題だと思えます。今後とも、保護者への啓発と協力をお願いします。 就寝時刻が24時を超える生徒の家庭学習の実態把握を進めるとともに、家族による日頃の関わりについて協力を求めていけるとよいと思います。 家庭での生活環境が重要だと思います。現代病になりつつあるスマホやPCの使用時間を見直したいところです。 ストップアップシートをベースにして、卒業生や加計高校生の話を聞くことで取組をより一層肉付けしていってほしい。	
	所屬感を感じられる集団づくり	自己肯定感の向上	・自己肯定感(i-check)の肯定的回答率85%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下		A	A	年間を通して、「3点固定」や「ストップ9」の取組を継続してきた。取組を進めていく中で、生徒の意識も高まってきている。重点取組期間だけでなく、日頃から意識していける声掛けと家庭での協力を求めたい。	問題と課題の違いについて正しく理解している生徒が少ないと思えます。中学生時代から正しく理解させることで、発言や文章がよくなると思えます。 体験的な活動を通して、自己表現力の向上につながる意見発表の場を設定するなど、生徒達に表現の場を多く与えて頂きたいです。 自ら思考し達成(解決)できる体験を増やしていけるとよいと思います。また、その課題は大人レベルのものでもよいと思えます。 がんばりぬく経験させていってほしい。	
	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる	自己肯定感の向上	「キャリア・パスポート」の効果的な活用 総合的な学習の時間を探究型の学びにする	・充実感と向上心(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・生徒質問紙[総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか]の肯定的回答率100%		A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	A	A	i-checkでの充実感と向上心の肯定的回答は89.1%(1年:92.2%、2年:87.5%、3年:87.5%)であった。とりわけ、「勉強やスポーツ、習いごと、趣味などで、今がんばっていることがありますか。」という設問にほとんどの生徒が肯定的回答をしている。 総合的な学習の時間での生徒質問紙では、肯定的な回答は75.5%であった。 充実感を感じるためには、困難な課題に対して、仲間との対話などを通して粘り強く取り組む体験が大切になってくる。こういった活動を仕組むことで、充実感や向上心を育てていきたい。 新聞を活用して、社会の様々な事象に関心を持たせていくことで探究心を育てていきたい。また、各教科等の学習を通して、情報を収集する力や整理・表現する力を高めていきたい。	問題と課題の違いについて正しく理解している生徒が少ないと思えます。中学生時代から正しく理解させることで、発言や文章がよくなると思えます。 体験的な活動を通して、自己表現力の向上につながる意見発表の場を設定するなど、生徒達に表現の場を多く与えて頂きたいです。 自ら思考し達成(解決)できる体験を増やしていけるとよいと思います。また、その課題は大人レベルのものでもよいと思えます。 がんばりぬく経験させていってほしい。
地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献活動への参加	・社会参画(i-check)の肯定的回答率90%以上 ・地域貢献活動後の生徒の感想(肯定的記述)	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	総務部	A	A	i-checkでの社会参画の肯定的回答は83.4%(1年:85.4%、2年:81.5%、3年:83.3%)であった。多くの生徒が、地域との関わりを肯定的に捉えている。 地域行事への参加、二級課外大観音のボランティア清掃活動への参加などを通して、参加した生徒の感想からは、地域貢献に対する自己有用感を強く感じているものが多くあった。 i-checkの結果を見ると、「困っている人がいると、迷わず手助けをしますか」という設問で肯定的回答がやや低くなっている。今後、生徒発の地域貢献活動にも取り組ませ、主体的・積極的に関わっていくことができる力を育てていきたい。	「なぜ、地域に貢献しなければいけないのか」「地域貢献をすることでどうなるのか」ということを伝えると、主体的に地域貢献に参加する生徒が増えると思えます。 新型コロナウイルス感染症上の分類が2類から5類へ引き下げられ、地域行事も復活できてきており、中学生の力が大きくなっていると思えます。 学校の内外で工夫されていると感じます。地域でも積極的に生徒を受け入れ、活動させることで自信をつける場として協力をしていきたいと思えます。そのために、学校からの希望も聞かせてほしい。 先輩の行動が手本となり、「[そうならない]」「やってみよう」という風土が校内にあると感じます。そのことが良き伝統文化に繋がっていると思えます。 学校と地域が協働・連携して、体験の場や社会参加の機会を多くしていきたいです。 自信を持って行動できる資質や能力を育てていってほしいです。自信は経験値の多さだと思いますので、様々なことに経験させる場を設定していけるとよいと思います。	
	信頼される学校づくり	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実	・生徒及び保護者の学校満足度…90%以上 ・教職員の業務へのやりがい(充実感)…肯定的回答率90%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下		A	A	質問紙における生徒の学校満足度は86.4%、保護者の学校満足度は96.5%であった。保護者の97.1%(前回99.1%)が「学校は、生徒や保護者の悩みや相談に適切に対応している。」と回答している。 全教職員が業務へのやりがい(充実感)を感じている。 今年度の質問紙で特出すべき点は、多くの保護者が「学校は、生徒や保護者の悩みや相談に適切に対応している。」と回答していることである。学級担任はもちろんだが学年会の職員、養護教諭、SCやSSWといった様々な窓口を通して相談ができる体制ができていることがこの結果につながっていると思われる。今後もし引き続き、チーム学校として、生徒や保護者の思いに寄り添った教育活動を続けていきたい。また、そういったことが教職員の充実感にもつながっているものと考えられる。	よい方向に進んでおり、先生方の努力の跡がうかがえます。 SNSを活用した情報共有、文章や面談以外でも学校とのコミュニケーションを取れる機会が増えると思う思います。 全教職員が業務にやりがいを感じてもらっていることに安心と感謝の気持ちを持ちました。しかし、業務に申しんどのい苦労している事もあると思うので、管理職及び職員間で把握し共有してほしいと願います。 生徒と先生が同じ目標で取り組める、お互いにクリア可能な課題をもちあわせてみるのも良い反応があるかもしれません。	